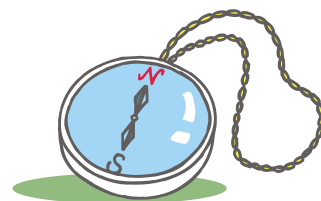


羅 針 盤

第 **19** 号

令和8年10月26日（月）



◆ 「1度の努力」を忘れずに！

生徒の皆さんは、小学校のときには算数の授業で、中学校では数学の授業で使ったことのある分度器を知っていますね。角度が1度の目盛りを思いうかべてみてください。0度からほんのわずかな上に目盛りが打っています。普段から使っているノートに10cmの直線を引いたとしたら、1度の高さは、わずか1.7mmしかありません。1m先まで伸ばしてみると、1.7cmの高さになります。しかしながら、たった1度でも、100m先まで伸ばすと、その高さは1.7mになります。ほんのわずかな差が、人間の身長ほどになります。1km先まで伸ばすと、17mほどの高さにまで及ぶことになります。一般的な建物の4階ほどの高さ、これはラグビーのゴールポストと同じ高さです。最初はわずかな違いであったものが、地道な目立たないような努力を積み重ねていくことで、長い年月を経ていくことで大きな差となって現れるものとなります。0（ゼロ）は、どこまでいっても0（ゼロ）のままです。努力を積み重ねていかなければ、何の発展もなければ、進展もありません。1度という毎日のわずかな努力の積み重ねが大きな結果につながり、自分自身を大きく変えていくことになります。今月の初めに、2学期の定期テスト（中間テスト）が実施されました。各教科の授業では解答用紙が返却されて、その点数結果に一喜一憂したことだと思います。しかしながら、その点数結果よりも、その後の学習活動が何よりも大事であることを生徒の皆さんはしっかりと理解しているでしょうか。自分自身が間違ったところを見直して、次回同じ問題が出題されたときには同じ間違いをしないように、意識して学習を進める努力ができていますでしょうか。結果を受け止めるだけで終わるのではなく、これからの自分の在り方につなげていくという努力を忘れてはいけないと思います。ほんのわずかな違いですが、今すぐに結果として出なくても、1週間後、1カ月後、そして1年後には、きっと大きな差となって現れてきます。未来の君たち一人ひとりが、この「1度の努力」を怠らずに、大きく成長してくれることを願っています。



◆ 思い起こせば、6年前は…

時間が過ぎ去るのは、本当に早いものです。思い起こせば、6年前は新型コロナウイルス感染症の影響により大半の中学校が10月に入ってから修学旅行の実施となっていた時期でした。「新しい生活様式」や「三蜜」などという言葉が流行語として挙げられ、日常生活が大きな変化を遂げていた時期と言っても過言ではないかと思います。当時の中学生（小学生や高校生も）は、毎日「学校に通うことができる」といった今では当たり前のこととなっていることに、とても大きな幸せに感じていた時期であったと、振り返ってみれば感慨深く思います。いつ何時、こういったことが原因となって、また、パンデミックが起らないとも限りません。ならば、「今、この一瞬」といったものをかけがえのない時間であると考えて、行動し、有意義に過ごすことができているのでしょうか。人間は、誰もが自分自身には甘い生き物です。ときには、本当に時間の無駄遣いをしていないのか、自分のとっている行動は自分勝手な行動だったのではないのか、といった疑問を自分自身に投げかけてみる必要があるように思います。

